

高槻名誉市民を

語り継ぐ会会報

27号

平成28年7月1日

先日北欧を旅行してきました。見学するに実に古い建物が多くありました。北欧では古いものにこそ価値があるとの考えで、厳しい取り決めがあるそうです。ただ建物とみているだけでなく、大切な空間の場所としてみているのでしょうか。すなわち「古きよきものを」を大切に「古い建物こそ価値がある」「古さこそが美」という観点があるのです。それが心の豊かさや、人生に大きく影響を与えているのでしょうか。

それに比べ、日本はその継承という意識が、世界的に見ても少ない国なのだと思います。そして、ふと思い出しました、高槻名誉市民高碓翁の言葉『古きものは古きが故に尊い』を……。(馬淵)



高槻市マスコットキャラクター『はにたん』

■6月18日「LT 貿易と高碓達之助」講演会出席

高槻市日中友好協会主催の胡金定甲南大学教授の記念講演を聴きに行きました。日本と中国との関わりについて、最近話題になっている中国人観光客による「爆買」が今後中国政府の方針変更により少なくなっていくだろうという話も含め、多くの話題について話をされました。

最も興味を惹かれたのが、日本が終戦後最初に参加したバンドン会議での高碓達之助さんと中国の周恩来首相との会談です。2人の忌憚のない話合いが、「平和共存5原則」の上でのLT貿易開始に始まる国交正常化から日中国交回復実現への道に繋がったのです。

講演終了後、懇親会にも出席して胡金定教授や、日中友好協会の方々とも歓談することができました。(藤川)

■新版書発行のお知らせ

この度(2016年3月31日)「企業家活動でたどるサステイナブル経営史」(文眞堂)が発行されました。

この中で我々の会にも参加されました島津淳子さん(法政大学イノベーション・マネジメント研究センター客員研究員)が第3章:産業発展を見据えた経営理念-高碓達之助(東洋製罐株式会社)を執筆なさいました。

内容は高碓翁は水産講習所時代の伊谷先生の影響を受け、私心なき奉仕の精神にのっとり、国家貢献志向のもと企業の社会的責任を果たし、社会の持続的発展に寄与することこそが企業家活動であると述べています。

一度お読みください。

企業家活動でたどる
サステイナブル経営史

CSR 経営の先駆者に学ぶ

長谷川 直哉 編著

■新コーナー会員紹介北村正信氏

会員の皆さま、こんにちは北村正信です。この会の存在は勤務した茨高の先輩教師から教えてもらいました。在任中に荘川桜二世が移植され、当時の校長が高碓の業績を全校生に紹介しました。さらに、高碓関連の書物で知った桜移植の協力者笹部新太郎翁への三顧の礼、満州の残留邦人の帰国問題や周恩来首相との信頼関係、日ソ漁業交渉など、歴史の当事者の人間味に私は惚れ込んでしまい、後世に伝えなければならない思いで高校で活動してきました。

私の体験などがお役に立てば幸いです。



■7月の定例勉強会(14:00~16:00)

7/11:(高碓達之助翁)高槻文化会館
・高碓翁の活躍した時代背景
(宮本会員)

7/25:(高碓達之助翁)高槻文化会館
・満州時代の高碓達之助翁
(藤川会員)

会員募集

年会費

¥2,000-

高槻名誉
市民を語り
継ぐ会